

経営比較分析表（令和3年度決算）

静岡県 吉田町

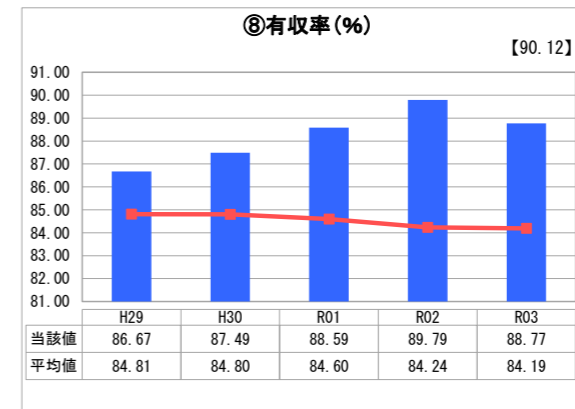
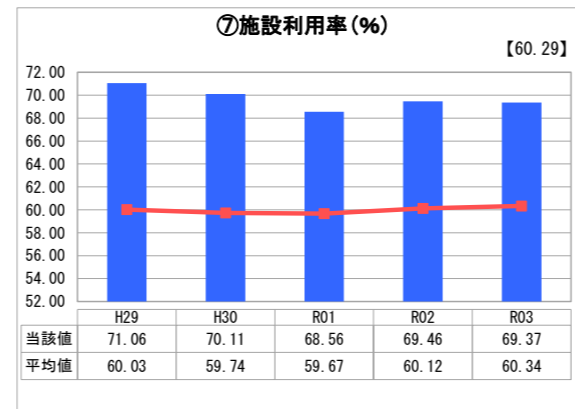
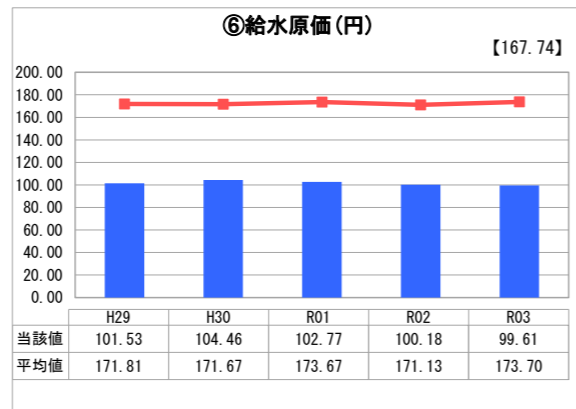
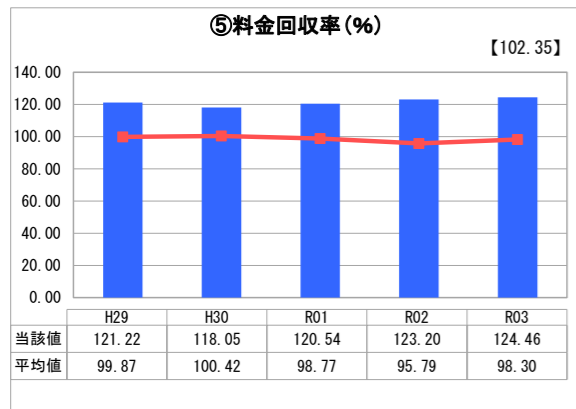
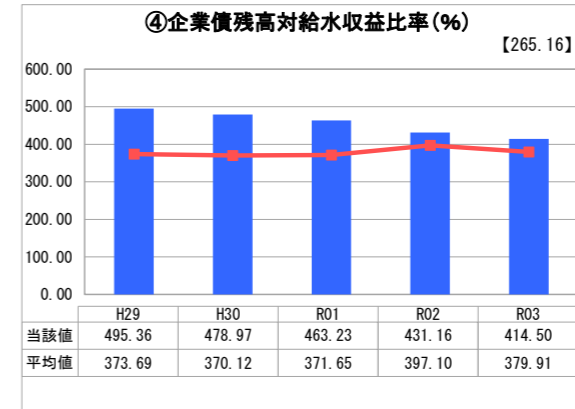
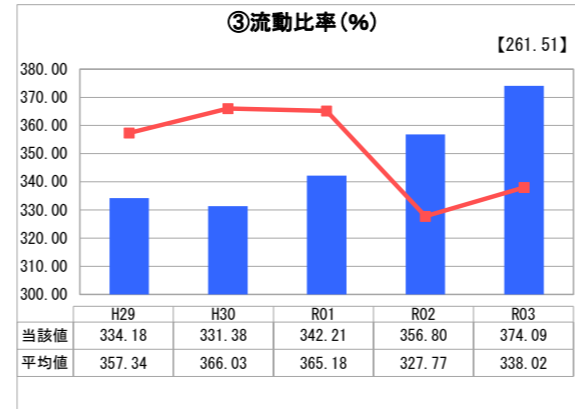
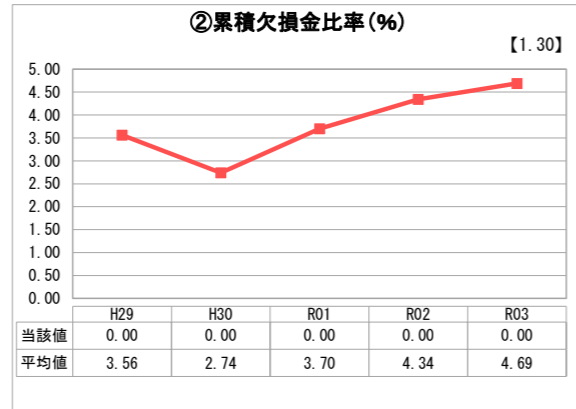
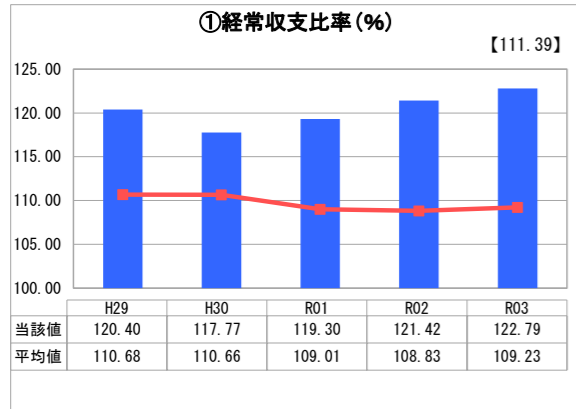
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	71.06	95.34	2,266	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,230	20.73	1,410.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
31,705	38.35	826.73

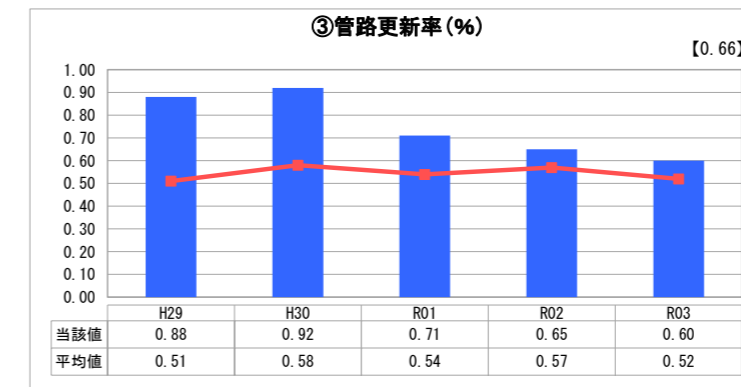
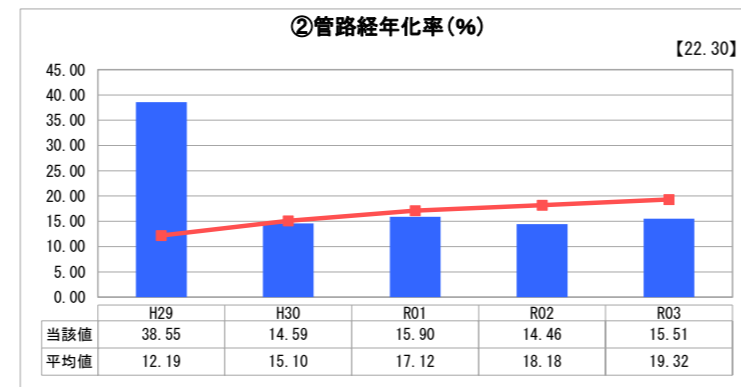
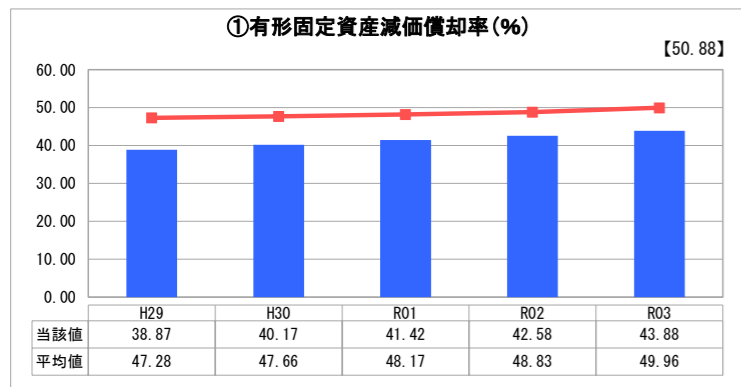
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を超え類似団体平均を上回っており、良好な数値を維持している。収益のほとんどは給水収益であり、健全な経営が保たれている。
 ② 累積欠損金比率は、欠損金が生じていないため継続して0%である。
 ③ 流動比率は300%を超えて推移しており、支払能力は十分に備えている。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は類似団体平均を超えて若干高い数値となっているが、減少傾向にある。企業債残高は配水池、浄水池等の耐震化を進めたために起債額が増加した経緯があり、現在は返済額を超えない額を借入額とすることで企業債残高の減少に努めており、今後も継続して計画的な償還を行っていく。
 ⑤ 料金回収率は100%を超える水準で推移している。給水に係る費用を全てを給水収益で賄うことができている。良好な状態である。
 ⑥ 給水原価はほぼ横ばいで推移している。水源に恵まれ、給水コストが低く抑えられていることから、類似団体平均値と比較して良好な状態を維持できている。
 ⑦ 施設利用率はほぼ横ばいで推移しており、類似団体平均を継続して上回っている。適切な規模の施設を効率良く利用できている。
 ⑧ 有収率は類似団体平均と比較して上回っているが、近年上昇傾向にあったものが令和3年度は減少に転じている。漏水等の無収水量が発生していると考えられる。これまでも有収率の向上を目指して漏水調査を行い、早期発見、適切な修繕に努めてきたが、今後は漏水の可能性の高い材質の管を中心に漏水調査を計画的に実施し、より一層の漏水早期発見、迅速な修繕等の対策を講じる必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値より低く、良好な数値であるが、若干の増加傾向で推移している。法定耐用年数に近い管路の割合が増加していることを示しており、老朽化が徐々に進行していると言える。今後も計画的な施設や管路の更新に努める必要がある。
 ② 管路経年化率は類似団体平均を下回っているが、前年を上回る結果となっている。より一層の計画的な管路更新を進める必要がある。なお、平成30年度から総務省の基準に合わせ、対象とする老朽管の年数を20年から40年に変更したことにより、平成29年度以前の数値を大きく下回る結果となっている。
 ③ 管路更新率は類似団体平均と比較して上回っており良好な状態であるが、令和3年度から管路更新に加えて施設更新を実施しているため、管路の更新率は低い数値となった。

全体総括

経営の健全性・効率性の指標は望ましいとされている数値を満たしており、類似団体平均値と比較しても良好な数値であることから健全な経営状態であると判断できる。また、継続的な黒字を確保しつつ、企業債残高を減少させることができている。効率的な運営ができていると評価できる。
 しかしながら、老朽化は徐々に進行している状況であり、計画的な管路及び施設の更新に取り組む必要がある。
 今後は更新費用が嵩んでいくとともに、物価上昇等による経常経費の上昇も考えられる。令和5年度には経営戦略策定から5年が経過し、見直しが必要な時期を迎えている。見直しの中で今後の施設更新需要や更新費用について改めて検討を行い、より一層の効率的かつ安定した経営に努めていく。